	学級活動		生徒会活動	○	学校行事	別紙様式２

令和３年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和中学校	校　長	佐野　元章	生徒指導主事	藤　潤次

取 組 事 例 名	『吉中太鼓』				
取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「主体性・積極性」	2	「高い志・使命感」	3

取 組 の ね ら い

今から 35 年前，「荒れた生徒の立て直しと学校への定着」を念じて生まれたものである。当時の吉和中学校は，暴力行為も多発し，学校に位置付かない生徒たちを，どうやったら学校に根付かせることができるか，課題のある生徒の居場所づくりを目的として誕生した。その後，太鼓を通じて自己存在感を高めることを目的に，全生徒を対象として，「心で打つ太鼓」を目指している。

取 組 の 具 体 的 内 容

総合的な学習の時間を利用し，毎週学年に応じた練習を行っている。２学期の「文化祭」，３学期の「バチの受け渡し式」ではそれぞれの学年が，練習してきた成果を発表している。
また，３年生は校内での発表にとどまらず，地域のイベントや，尾道市のイベントにも積極的に参加している。しかし，昨年度から続く新型コロナウィルスの感染症の影響により，行事等が中止となり，披露する機会が減少し，校外で太鼓を打ったのは今年度１回のみであった。発表の場をいくつか設定することで，１・２年生は，３年生の太鼓を目標に，３年生は今回よりは次回の演奏と，録画したビデオで自分たちの演奏を振り返り，曲を聴いてくれる方々をいかにして感動させるかを，自ら考え練習に励んでいる。

＜青少年健全育成大会＞

＜練習の様子＞

取 組 の 創 意 工 夫
『キーワード　継承』

現在の３年生が 35 期生となり，練習は退職された吉中太鼓創始者の先生の協力のもと，本校職員で指導に当たっている。しかし，誰もが指導できるわけでは無く，メインで指導している教職員も本校の在職期間が長く，次の指導の後継者に毎年悩んでいる。生徒については，２月に行われる「バチの受け渡し式」を通じ，儀式的に次の吉中太鼓のリーダーを育てる取組につながっている。

＜バチ受け渡し式＞

取 組 の 成 果 と 課 題

数年前までは，太鼓への憧れをもっている生徒も多く，生徒アンケートでは太鼓の取組に対する肯定的な回答は９割を超えていた。しかし，年々，「先輩方のような太鼓は打つことができない」「なぜ太鼓を打たないといけないのか」といった自己肯定感の低さから太鼓に対する意欲の低下が目立つようになり，今年度の３年生１学期生徒アンケートの「太鼓を披露したい」の項目は 77.6%であった。生徒・教職員が主体的に練習を行えるような環境を設定したり，普段の学校生活の中でも，自己肯定感を高める取組を行うことで，どの学年も，太鼓に対する姿勢や意義を考え，「吉中太鼓」に誇りを持って積極的に活動することができた。３年生３学期の生徒アンケートでは，「太鼓を披露したい」の項目を 87.5%まで上げることができた。３年間を通して，吉中太鼓に誇りを持ち，自ら進んで練習に取り組めるような力を育てる必要がある。また，ここ数年，本校への入学者が大きく減っている。吉中太鼓の取組を通して，主体的な学びを継承し，生徒の自己存在感を高め，吉和中で学んで良かったと言える生徒を多く輩出していきたい。